

工学部

I	教育の水準	教育 24-2
II	質の向上度	教育 24-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 工学分野に関する深い専門知識を学ぶ機会を設けるとともに、国際化教育を推進するため、平成22年度に特定教育研究講座として、「国際教育講座」、「エネルギー国際教育学科目」、「水素工学基礎科目」、「ナノ構造制御科目」を開設している。
- 平成22年度に学士課程国際コースを開設し、留学生が英語のみで学士を取得できる体制を整えている。また、入学者確保のために、学士課程国際コースの入学試験を韓国、中国、ベトナム、タイ、インドネシア、インドの6か国で実施するとともに、3か国で留学生フェアの実施、4か国で高校訪問を行うなど、積極的に広報活動を行っている。また、留学生への対応や、工学部独自の研修プログラムによる学生の海外派遣のため、国際交流支援室を設置している。
- 留学生向けの学士課程国際コースの開設や教育の国際化にともない、英語による教育が可能な外国人教員の増員に努めており、外国人教員数は、平成22年度の2名から平成27年度の8名へ増加している。また、女性教員の増員に取り組んでおり、女性教員数は、平成22年度の12名から平成27年度の23名へ増加している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成26年度より基礎的スキルと幅広い教養を身につけさせるための基幹教育を開始し、各学科で共通の必修科目とそれ以外の選択科目からなる専攻教育を総単位数の60%程度とし、1年次に基幹教育科目、主として2年次以降に専攻教育科目を配置している。
- 最先端技術、現場のニーズ、アプリケーション、社会の動向等、専攻教育科目で学ぶ知識や考え方を実社会にどのように活かすかを考えさせるために、企業の研究者、技術者及び他大学の教員を非常勤講師として招へいして特別講義を実施しているほか、工場見学や現場見学等を実施している。

以上の状況等及び工学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度における卒業生の標準修業年限内の卒業率は83.0%から87.0%の間を推移している。
- 平成22年度から平成26年度において学生が共著者として発表された論文発表件数は、年度平均で355件となっており、論文発表又は国際会議の発表を行った学生は176名となっている。
- 平成22年度から平成26年度における学生の国内外の学会等での受賞件数は、年度平均で23件となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度における大学院への進学率は、83.0%から87.5%の間を推移している。

以上の状況等及び工学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 工学分野に関する深い専門知識を学ぶ機会を設けるとともに、国際化教育を推進するため、平成 22 年度に特定教育研究講座として、「国際教育講座」、「エネルギー国際教育学科目」、「水素工学基礎科目」、「ナノ構造制御科目」を開設している。
- 平成 22 年度に学士課程国際コースを開設し、留学生が英語のみで学士を取得できる体制を整えている。また、入学者確保のために、学士課程国際コースの入学試験を韓国、中国、ベトナム、タイ、インドネシア、インドの 6 か国で実施するとともに、3 か国で留学生フェアの実施、4 か国で高校訪問を行うなど、積極的に広報活動を行っている。
- 留学生向けの学士課程国際コースの開設や教育の国際化にともない、英語による教育が可能な外国人教員の増員に努めており、外国人教員数は、平成 22 年度の 2 名から平成 27 年度の 8 名へ増加している。また、女性教員の増員に取り組んでおり、女性教員数は、平成 22 年度の 12 名から平成 27 年度の 23 名へ増加している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度から平成 26 年度に学生が共著者として発表した論文の件数は、年度平均 355 件となっており、論文発表又は国際会議の発表を行った学生の数は、年度平均 176 名となっている。
- 平成 22 年度から平成 26 年度における学生の学会賞等の受賞件数は、年度平均 23 件となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。